

歴史民俗資料館だより

枡 (ます)

枡は穀物や食塩・酒・醤油・酢・漆などの体積を量る計量器具です。基準となるのは一升枡で、そのほかに二合五勺・五合・五升・七升枡があります。

枡の量の基準が確立したのは、大化元年（六四五）に起こった大化の改新によって、律令政府が出現し、全国統一の税制の租が実施されたことに由来します。輪租田一段の租二束二把が、現今の一升九合に換算され、これが枡の制定につながっています。大宝令には「大枡」と「小枡」がありました。平安時代に生じた度量衡制の混乱は国家の税収入の危機とみなして、延久四年（一〇七二）後三条天皇の宣旨によって宣旨枡を制定しました。この枡が中世には広く使用されましたが、室町時代中頃になると、再び各守護大名や地頭が制定した私枡が横行し、再び混乱しました。

織田信長・豊臣秀吉による統一事業は、度量衡の統一を促して、京都の商人が用いていた十人枡が次第に公定枡化し、豊臣秀吉が行った天正の石直しの際の基準枡として用いられ、

京枡が全国的な基準枡となりました。江戸幕府は江戸に江戸枡座を創設し、京枡を方四寸九分（約十五センチメートル）深さ二寸七分（約八センチメートル）と定め、天領地で使用に努めたので、やがて全国に普及しました。更に、明治八年、明治政府は計量の混乱を恐れて、京枡をそのまま法定枡と定めました。

ここまでに述べた枡はすべて木製で、ヒノキ・杉で製造し、ところによってはサワラなども用いられました。枡座の規定では、ヒノキの柁目と定めており、形態は方形です。大きさは、一合・二合五勺・五合一升・五升・七升・一斗の七種類がありました。明治時代に入って二升枡が制定され、七升枡が失くなり、一斗枡は曲物による円形のものが出現

しました。穀物用の五合以上の枡には、対角線状に弦鉄物と称する弦鉄を渡すことが定められており、口縁および木組の部分も鉄片で補強されています。弦鉄物がある枡のことを「つるかけ」「つるかけます」と呼んでいます。

酒・油・酢などの液体をはかる枡は木地枡といえます。寸法は京枡と同じで斗搔をかけて表面を平らにする必要がないので弦鉄物がなく、木地のままです。このほかに甲州枡・けん地枡・紙枡等があります。



資料館では、木製の方形の一斗・一升・五合・一合枡や弦鉄物のついた円形の一斗枡を紹介、展示しています。

- ※一升〃一・八リットル
- 一合〃一升の十分の一
- 一勺〃一合の十分の一
- 一斗〃十升
- 一斗〃三・〇三センチメートル
- 一分〃一寸の十分の一

ごみ減量化コーナー



1人一日100グラム
ごみ減量運動実施中

生ごみは、燃えるごみの4割を占めています。そして、燃えるごみの約半分は水分です。生ごみの水切りは、ご家庭で簡単にできるごみ減量方法の一つです。

「生ごみの水切り」を習慣にしましょう。

◇ごみ減量の大原則！乾いた生ごみはぬらさない

料理しながら調理くずを水にぬらさない工夫をすることで、生ごみの水分量を抑えることができます。



◇ぎゅーっと！あとひと絞りしてみよう

水切りの方法は▽手で絞る▽水切り用具を使う▽新聞紙に包んで水を絞る新聞紙水切り法などさまざまな方法があります。